

## 資料2 関東・東北豪雨による常総市役所被害の概要と水害後の対応の事例

### ■市役所の概要

新庁舎	平成26年竣工、延床面積約4,200㎡、鉄筋コンクリート造、3階建 1階：市民課・健康保険課・税務課等 2階：業務関係各課・安全安心課 3階：市長室・執行関係各課・庁議室（被災当時の災害対策本部）
議会棟	昭和58年竣工、延床面積約2,300㎡、鉄筋コンクリート造、4階建
その他	・浸水ハザードマップ：2mの地域（被災当時） ・決壊場所から市役所までの距離：約10km上流

### ■被災時系列

平成27年

- 9月10日 0:10 市災害対策本部を設置  
12:50 鬼怒川堤防が決壊  
9月11日 2:00頃 市役所本庁舎が浸水



常総市役所全景  
※常総市ホームページより

### ■鬼怒川の氾濫による浸水状況

○ 常総市三坂町地先（鬼怒川左岸21.0km付近）における堤防決壊等に伴う氾濫により、常総市の約1/3の面積に相当する約40km<sup>2</sup>が浸水し、常総市役所も孤立した。



（内閣府 中央防災会議 水害時の避難・応急対策検討ワーキンググループ 報告書より引用）

## ■市役所の浸水被害・復旧状況

- ・庁舎内の浸水深さ 60～70 cm 程度（駐車場は 110 cm 程度）。
- ・当日は一日中、水に浸かっていた（12 日の朝には引いていた）。
- ・公用車 74 台、職員の車など約 300 台が水に浸かった（公用車の 1/3 程度が使用不可）。
- ・1 階執務室の書類や事務機器は担当課職員により 2 階に移動した。
- ・エレベーターは約 2.0 か月使用停止。
- ・非常用発電機を 1 階に設置していたため、使用不可。水没により給油も不可。
- ・太陽光発電機の蓄電池は 1 階に設置していたため、水没。
- ・トイレは水道事業所の浸水により、9 月 12 日～16 日まで使用停止（その間は仮設トイレで対応）。復旧工事に伴い 1 階は 11 月 6 日まで使用停止。

## ■被災時の問題点・被災後の改善対応

1	問題点	3 階庁議室を災害対策本部としたが、大規模災害時には国・県職員、自衛隊、消防、警察など多くの人間が出入りするため、狭かった。また、2 階安全安心課（防災担当）から離れているため、連絡体制が不十分だった。
	改善点	議会棟 2 階の大会議室を災害対策本部として使用し、当本部要員と連絡が取りやすいように、近傍の各部屋を関係機関の執務室として使用することとした。また、当本部に必要な地図、電話回線、テレビアンテナ線、電力増設等を準備した。
2	問題点	キュービクルや非常用発電機が地上に設置され、浸水により使用不可となった。
	改善点	防水壁（H = 2.0m）を設置

### 【写真】

設置した防水壁  
(H = 2.0m)



### 【出典・参照資料】

- ・平成 27 年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書：常総市水害対策検証委員会 より
- ・平成 28 年 9 月 28 日 常総市役所視察ヒアリング：他市視察（楸大建設計同行） より